

学校コンサルテーション事業の活用  
～児童生徒の笑顔溢れる学校でありますように！～



岡山県総合教育センター

# 学校コンサルテーション事業を 有効に活用しよう！

個や集団に応じた適切な指導支援を充実させるための一助となる学校コンサルテーションの具体的な活用の在り方についてお伝えします。

# 紹介内容

1 学校コンサルテーションについて

2 依頼内容の例と実施形態

学校として次のようなことで

悩まれることはないでしょうか？

例えば

学級の荒れや不登校の問題について、どう指導・支援策を進めればよいのだろうか？

生徒の困難さに応じた授業づくりは具体的にはどのように行えばよいのだろうか？

児童の自己肯定感を高めたいけど…。

特別な支援を必要とする児童を理解し、支援体制を充実させたいけど…。

生徒の気になる行動をどのように理解すればよいのか？



**Q 申請はどうやってすればいいですか？**



**A** 市町村（組合）立学校は、  
市町村教育委員会を經由して  
県立学校は  
管理職から当センターへ  
お問い合わせ下さい。



**Q 申請の期限や期間はどのようになっていますか？**



**A** **申請の時期**については  
実施日の2週間前までに、ケースの概要を  
学校から聞かせていただきたいと思います。  
それを見越して申し込んでいた  
だければありがたいです。  
ただ、急を要するケースなどについては、  
柔軟に対応します。  
**期間**については、  
年間を通して実施しています。



**Q 指導主事が学校を訪問する回数に制限はあるの？**



**A** ケースに応じて必要な回数を行います。  
年度を超えて実施する場合があります。



**Q 活用をしようかと検討段階だけど、実際の  
コンサルテーションのイメージがわかりません**



**A** 学校コンサルテーション担当者が、  
ケースの概要等について聞き取りをさ  
せていただき、  
具体的な部分についても相談させてい  
ただきます。

まずは、お電話を！





# 紹介内容

## 2 依頼内容の例と実施形態



# ～依頼内容の例～

## 生徒指導に関すること

- 学級の荒れ、不登校などの具体的なケースについて
- 児童生徒の自己肯定感を高め、互いに支え合い、高め合う集団にしていくためのポイントについて
- 教師と児童生徒の信頼関係づくりについて

## 特別支援教育に関すること

- 特別支援学級において、児童生徒の実態に応じた授業や自立活動の指導について
- 支援を必要とする児童生徒理解及び、個々の実態に応じた指導・支援の在り方について
- 通常学級において、児童生徒の困難さに応じた授業づくりについて

## ① 関係教員への指導方法・支援策等の助言

【ケース】 ※架空

小学校5年生通常学級に在籍している男子児童。  
教師に暴言を吐いたり、級友とも意見の食い違  
いでトラブルをよく起こし日々の指導に苦慮し  
ている。



## 【実施の流れ】

- ①申し込み・学校訪問日時の調整
- ②派遣申請書の提出
- ③事前打ち合わせ
- ④実施

### 当日タイムテーブルの例 ○月△日

12:30-13:00	打ち合わせ（校長）
13:00-13:45	休憩時間・清掃 参観
13:45-14:30	5限（国語）参観
14:40-15:25	6限（音楽）参観
15:30-15:55	聞き取り（担任）
16:00-16:55	ケース会議（校内関係教員）

## ① 関係教員への指導方法・支援策等の助言

### 大切にしていること【その1】 **傾聴**

当センターが学校の組織的な指導・支援策を一緒に考えたり、提案できるように管理職、担当者、担任等からしっかりと「思い」を聴き取ります！

### 大切にしていること【その2】 **アセスメント**

実際に学校での児童生徒や学級の様子を丁寧に観察し、行動の背景や要因を学校と共に考えます！

### 大切にしていること【その3】 **フォローアップ**

指導・支援策が一過性のものではなく、スモールステップで、取組が進むように、担当指導主事が学校等へのフォローアップをしっかりと行います！

# ① 関係教員への指導方法・支援策等の助言

適切な指導・支援策を行うためには、  
背景や要因の丁寧なアセスメントが必須！

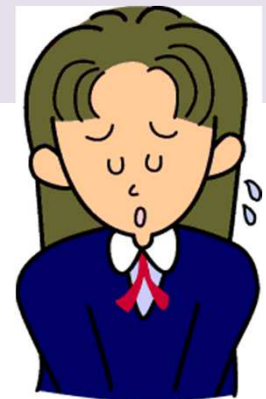


特別支援教育の視点も大切にしながら、背景や要因にアプローチする必要がある

## ② ケース会議

### 【ケース】 ※架空

中学校2年生の女子生徒。2学期当初より、週に2回ほど欠席するようになり、遅刻・早退も頻繁にある。対人関係の目立ったトラブル等は把握できていない。保護者との連携はあまり進んでいない。11月中旬現在まで、2週間に1回のペースで校内でのケース会議を開催してるが、教員も行き詰まり感を感じている。





## ② ケース会議

### 大切にしていること【その1】 **目的、目標の具体化**

情報交換に終始することがないように、ケース会議の目的をしっかりと参加者全員で確認し、短期、中期、長期目標（児童生徒の変容した姿等）を立てます！

### 大切にしていること【その2】 **役割分担の明確化**

「誰が、何を、どのように、どこで（場面）、いつまでに」するのか、役割分担を明確化し、支援策を考えます！

### 大切にしていること【その3】 **学校の主体性に基づいた連携**

複数の関係機関と連携をとる場合は、関係機関同士の連携がどのようになっているのかも把握した上で、本人の支援策を考える等、学校の主体性を軸にした支援策を考えます！

紹介した学校コンサルテーションは  
ほんの一例です。

学校コンサルテーションを活用して  
いただき、指導・支援策を一緒に考  
えましょう！



児童生徒の笑顔溢れる学校でありま  
すように！

